



きらり★きくにし

文責 校長 佐藤 正貴

情報伝達機能の発達で考える事①

一人一台の端末、ネット上の情報や個人が発信している内容にすぐにアクセス出来る環境。必要な事を必要な時に調べることができる、購入できる利便性。現金を持ち歩かない日常。

私が子どもの頃とは、大きく変化しています。学校で友だちと遊ぶ約束をした場合、時間を守ることは絶対に必要な事でした。学校で別れた後は、それぞれの時間で動くため、上手く連絡を取ることが出来ませんでした。相手の家の電話番号は、よほどの事が無い限り、知ることもありませんでした。約束の時間を守らなければ置いて行かれる、ひどいときは、約束を守ることができない「うそつき」呼ばわりされることもありました。こうして「時間を守ることは、人と付き合っていく上で重要であるという感覚」が身に付いてきました。

今は、メールやLINEで簡単に連絡を取ることができます。時間に遅れそうな時は、すぐに相手に自分の状況を伝えることができます。とても便利だと思う反面、それに慣れたくない自分がいます。なぜなら、自分の事を優先しているのか、相手のことを考えているのかという自分自身の生き方に直結していると考えているからです。時間を守るために、様々な状況を考慮しながら計画的に動く力が必要です。そうした力は、社会生活を営む上で必要な能力ではないでしょうか。

私自身の現在を振り返りながら述べてみました。人に迷惑をかけない生き方を目指し続けたいと思っています。

情報伝達機能の発達で考える事②

以前は、メディア等の情報に関して、私達の多くは単に受ける側でした。現在は、多くの人々が簡単に発信する側になることができます。発信する側のモラルが大切になってきますが、「表現の自由」という言葉のもとで他人の言動を誹謗中傷するような行為を見ると、残念な気持ちになります。一方、発信する側だけでなく、受信する側も正しい情報なのかどうかを判断する能力を身に付けることが必要です。

ネット環境を利用した詐欺事件や闇バイトの問題などは、日々巧妙化しています。こうした問題に巻き込まれる人は、どんどん低年齢化しています。「小学生だからまだ安心」ではありません。

学校では、こうした問題について子どもたちや保護者への情報提供や教室で学ぶ機会をつくることはできます。しかし、実際の問題は、子どもたちが下校した放課後、休日などに起きます。お子さんがゲームや

スマホで何をしているのか把握しておいてください。家庭でのスマホの使い方やルールを徹底してください。子どもたちが安心して生活できる基盤は家庭にあります。

子どもたちが、こうした情報機器を正しく、便利に活用できるようになるためには、家庭での学びが必要不可欠です。合わせて、子どもたちが、実際に何をしているのか正確に把握することも家庭でしかできないことです。ご協力をよろしくお願いします。

第2回学校運営協議会

9月9日（火）に第2回学校運営協議会を実施しました。今回は協議会委員に加え、学校の学年主任も出席し、地域の課題や児童の様子について協議しました。



今年度の学校運営協議会委員の皆様

協議では、登下校や自転車利用の様子、地域とのつながりやいじめ・不登校の現状について話し合いました。地域・保護者の視点と教職員の声を交えながら、子どもたちのよりよい成長支援について活発な意見交換が行われました。今後も学校・地域が連携し、安心して学べる環境づくりを進めてまいります。（教頭 長島）



協議の様子

中学生職場体験

9月16日（火）～19日（金）の4日間、本校に武蔵ヶ丘中学校の2・3年生が職場体験に来ました。

前半の16日・17日が3年生6名、後半の18日・19日が2年生7名の体験で、それぞれ2日間ずつ、低学年の教室を中心に学習の補助や児童とのふれあい活動を通して、学校という職場について学んでいきました。参加した全員が本校の卒業生というのもあって、児童の関わり方や校内の安全なども自然で頼もし姿が印象的でした。子供たちもお兄さん・お姉さんのような存在に親しみを感じていたようで、笑顔で接する様子があちこちで見られました。

児童をいろんな場所に連れて行くのも慣れた感じでした。本校の卒業生が成長した姿でこうして戻ってきてくれることは大変うれしく思います。

最後の挨拶で「将来、学校の先生になりたいです」と話してくれた生徒もいて、私たち職員にとっても大変うれしく、励みになる言葉でした。今回の体験が将来の進路や夢につながるきっかけになることを願っています。（教頭 西村）